

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3671400053
法人名	社会福祉法人 東紅会
事業所名	グループホーム ヒワサ
所在地	徳島県海部郡美波町西河内字丹前99番地 (電話) 0884-77-2001

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 2月 27日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 4 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86 歳	最低 72 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ヒワサクリニック	・日和佐病院	・協立病院	・野口歯科医院
---------	-----------	--------	-------	---------

徳島県 グループホームヒワサ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、背後に山があり、すぐ前を川が流れ、周囲には田畑が広がっていて、自然に恵まれた環境にある。協力医療機関がすぐ側にあり、医療との連携が十分に図られている。介護の面では、利用者一人ひとりの趣味や嗜好や過去の経験などをもとに「生きがいプラン」を作り、それをもとに毎月の「個別予定表」を作って、個々の利用者がその人らしく過すことができるように支援されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では要改善とされた項目はなかったため、この欄に特記する事ありません。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者はサービスの質の向上のためにミーティングを通じて全職員に自己評価の意義や目的を伝え、職員全員で自己評価の実践に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、主として、外部評価の意義や内容が報告され、それに対して会議のメンバーから意見や要望が出され、それらを検討し、サービスの質の向上に活かされている。運営推進会議は2ヶ月に一度開催されていて、メンバーは、利用者代表、利用者の家族代表、地域包括支援センター長、元民生委、児童委員協議会支部長、老人クラブ連合会会長、元婦人会地区会長、連携医療機関、地域住民代表、事業所代表で構成されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族は、それぞれ遠方の方、近隣の方が居るが、家族の要望や意見には手紙や面会のため来訪された時に聴くようにされている。意見や要望の内容についてはミーティング時に話し合われ、運営に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所と地域とは、地域の祭りやイベントに利用者が参加したり、事業所の催しや避難訓練に地域住民やボランティアが参加するというように相互に連携が図られている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所開設当初に作られた理念であるが、利用者がその地域でその人らしく生活し続けることを支援していくための理念となっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念の意義を理解し、確認しながら、毎日の介護の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りやイベントにはホームの利用者も参加され、事業所の催しや避難訓練の時には、地域住民やボランティアが参加するというように相互に交流が行われている。また、近所の方の休耕地で農作物を作ること、神社への散歩時に職員が中心となって行う境内の清掃活動等へも取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、ミーティング時に自己評価及び外部評価の目的や意義を全職員に伝え、全員で評価を活かした取り組みを行っている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。外部評価の意義を伝え、その内容を報告されている。それについてメンバーの方々から意見や要望が出され、それらをサービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情やケアサービスの取り組みを町の担当者や地域包括支援センターの方に折に触れて伝えられている。また、町の職員もホームの行事に参加され、相互の交流を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態などについて、遠方の家族には月1回電話で報告し、近隣の家族へは面会時や電話などで報告している。また、年2回ホーム便りを発行したり、年賀状や手紙を出したりしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望や意見については、普段から気軽に話してもらえる雰囲気作りに努め、手紙や面会時に聞くようにしている。要望や意見の内容は、ミーティングで話し合いをし、運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えられているが、やむを得ず職員が代わる場合、引き継ぎの期間を十分にとり、新しい職員に馴染んでもらうよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外での研修受講を支援されている。研修内容は、職員会議やミーティング時に発表されたり、研修報告書に綴じられて、全職員が閲覧するようにされている。また、閲覧したことが分かるサインもできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の老人福祉施設協議会に加入しており、他のグループホームの見学や相互研修を通じて交流されている。そこで学んだものを介護に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にいたるまでは、利用者や家族にホームの見学や職員の家庭訪問を通して徐々に馴染んでもらったり、入居後も家族の協力を得ながら利用者が馴染むまで、種々の段階の支援をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は年長者である利用者に敬意をもって接し、伝統文化や暮らしの知恵などを教わり、互いに支えあいながら生活されている。また、利用者の特技を活かし、それぞれの得意分野で力を発揮できるように支援されている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活背景や希望を把握し、利用者にとって何がやりがいとして感じられるかを検討し、個々の利用者の「生きがいプラン」を作成され、それをもとに毎月「個別予定表」を作り支援されている。意思疎通が困難な方には、その人が安心して過せる生活ペースを尊重し、支援をされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族、職員が、利用者が自分らしく暮らせるような課題と介護について話し合いをし、それぞれの意見や考えを反映した介護計画を作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回のモニタリングを行い、家族や利用者の意見を聞いたりしながら「計画」が妥当かどうか検討されている。3ヶ月に1度の見直しもされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制ができています。また、利用者本人や家族の事情に応じて、受診の送り迎えの支援もされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診や通院介助について説明を行い希望に応じて馴染みのかかりつけ医や協力医で受診できるようにして、受診結果は家族に報告されています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化及び看取りに関する指針」を作成され、契約時に家族に説明を行い、早期の段階から対応方針を共有するようにされている。利用者の状態が変化した場合、本人の意向を踏まえて、家族、医師、看護師を交えて話し合い、どのように対応すべきか共通理解を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりに対し、敬愛と親しみのある言葉かけや対応をされていた。このことについては、ミーティングや研修会で十分話し合われ、日常の介護において、それが実践されているかどうかリーダーが点検するなどして徹底化を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月ごとに毎日の「個別予定表」を作り、利用者の希望やその人の生活のペースに沿った活動が支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の勤務状況から昼食だけ利用者と職員が食事を共にされている。食事は、利用者と職員と一緒に準備し、食事をとり、片付けをされ、楽しいひと時を過ごされている。食材はホームで作ったものも取り入れ、食事形態は利用者が食べやすいような工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日いつでも入浴できることになっている。利用者によっては、入浴を拒む人もいるが、そんな時は、言葉がけや対応に十分配慮されて、チームで入浴を支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの趣味や希望を聞き、また日常の役割を決め、毎月「個別予定表」を作成し、個々の利用者の役割、楽しみごと、気晴らしの支援がされている。意思疎通の困難な人にも、その人が最も好む生活リズムを毎日送れるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ドライブ、買い物、菜園作業などは利用者のリハビリ(機能回復)を兼ねて気候や天候に合わせて毎日行うようにされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が利用者一人ひとりの行動パターンを把握しており、見守りを行うことによって、日中玄関の鍵は掛けないで、利用者の個々の自由な暮らしを支援されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事・地震・夜間を想定した年3回の避難訓練を実施されている。訓練に当たっては、併設の事業所や地域と合同で行い、特に消火訓練では消防署の協力を得て実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は主として母体法人の厨房で作られていて、管理栄養士による栄養バランスを考慮した献立作りができています。また、嗜好調査で個々の利用者の好みや食事の習慣の把握に努め、給食会議を開いて、利用者の個々のニーズ(好みと必要)にあった食事を作っている。食事や水分の摂取量チェックを毎日実施し、状態に応じた支援をされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂ではテレビの音量、職員間の会話の声の高さに配慮されている。また、光については照明の照度や窓からの採光にも十分配慮されている。季節の飾りつけもなされ、ひな壇にはお雛様が飾られ、生け花や金魚の泳ぐ水槽などが居心地良く過ごせるよう工夫し配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者一人ひとりの日常生活の活動能力や生活習慣に応じて、必要最小限の簡素な居室作りをされている方、俳句を詠まれる人は壁一面に短冊を掲示してあったり、好みの置物を配置して部屋を飾る人など、それぞれの居室作りがなされている。		